

A microscopic view of tissue, likely a histological section, showing cellular structures and a network of fibers. The image is overlaid with a semi-transparent blue filter. The text is centered on the image.

RISK OF

# CANCER

GENETIC TESTING

Life comes with many challenges.

*The choices you make now will determine your future.*

# 癌

- 癌は体の細胞の一部が変異して起こりる。癌細胞は、ゆっくりと時間をかけて増殖し（早期がん）やがて小さな腫瘍や粘膜の変化となって現れる。
- 癌は時間がたつほど増殖のスピードが速くなり、その部分に自覚症状を感じるようになる。
- 癌細胞は正常な細胞から栄養分を奪って成長し、身体は衰弱し体重が激減する。
- 癌は転移（体のほかの場所に飛び火）し始め、一度転移が起こるとほかの場所にも次々と転移する。
- 癌が起こった最初の器官（原発巣）はもちろんのこと、転移した先の器官や組織も破壊されるようになり器官としての機能が衰えてしまう。
- 身体のおちこちのがん細胞がはびこり体中の機能が衰えると（末期がん）生命の維持が困難になる。

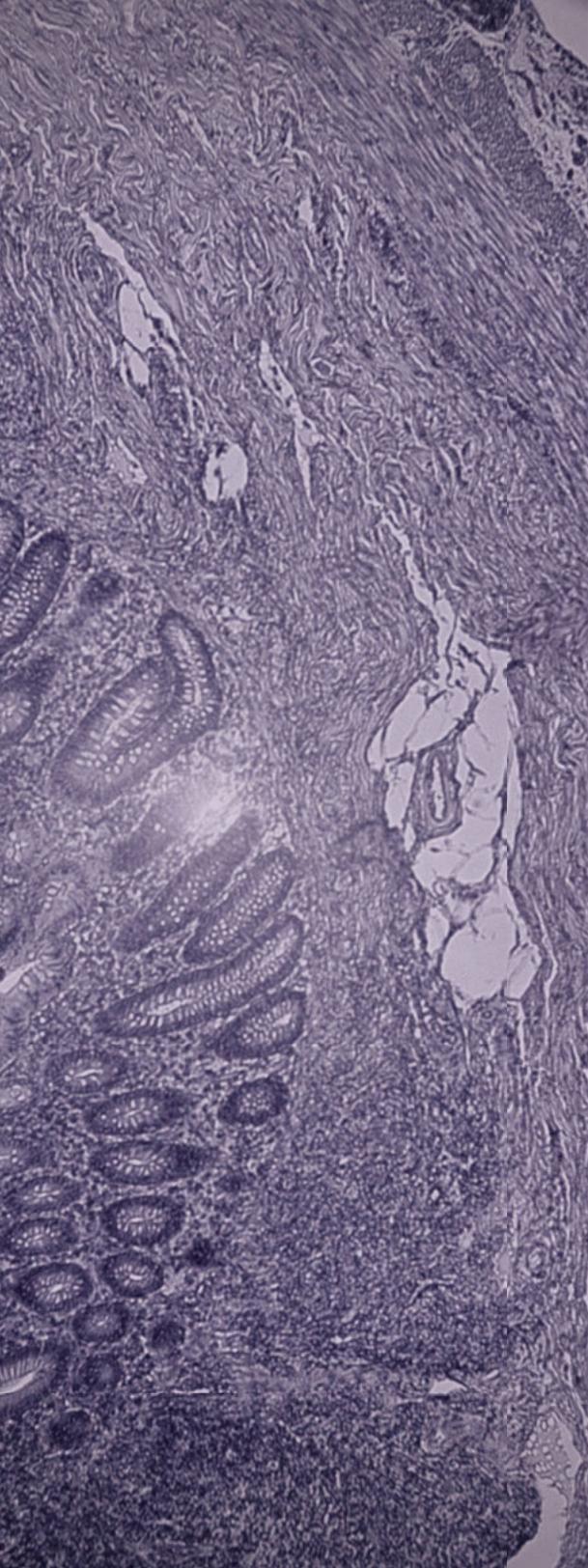
※症状や進行は、個人差があり器官によっても異なる。

## 困難

がんの発病にはさまざまな原因があり、家族性のがん以外では発症しやすい人を生活習慣や血液検査だけで診断することは困難。私たちは未来が予測できないために定期的な事後的検査を繰り返すか保険で苦悩を相殺するしか術はなかった。

## 増殖と発病

体の種々の臓器のがんは、がんになりやすい体質(遺伝子リスク)の人が、なりやすい生活習慣を継続することによりがん細胞が年余の時間をかけて増殖していき、発病にいたるとされている。



The choices you make now will determine your future.

# 癌

- 癌は体の細胞の一部が変異して起こりる。癌細胞は、ゆっくりと時間をかけて増殖し（早期がん）やがて小さな腫瘍や粘膜の変化となって現れる。
- 癌は時間がたつほど増殖のスピードが速くなり、その部分に自覚症状を感じるようになる。
- 癌細胞は正常な細胞から栄養分を奪って成長し、身体は衰弱し体重が激減する。
- 癌は転移（体のほかの場所に飛び火）し始め、一度転移が起こるとほかの場所にも次々と転移する。
- 癌が起こった最初の器官（原発巣）はもちろんのこと、転移した先の器官や組織も破壊されるようになり器官としての機能が衰えてしまう。
- 身体のおちこちのがん細胞がはびこり体中の機能が衰えると（末期がん）生命の維持が困難になる。

※症状や進行は、個人差があり器官によっても異なる。

## 困難

がんの発病にはさまざまな原因があり、家族性のがん以外では発症しやすい人を生活習慣や血液検査だけで診断することは困難。私たちは未来が予測できないために定期的な事後的検査を繰り返すか保険で苦悩を相殺するしか術はなかった。

## 増殖と発病

体の種々の臓器のがんは、がんになりやすい体質(遺伝子リスク)の人が、なりやすい生活習慣を継続することによりがん細胞が年余の時間をかけて増殖していき、発病にいたるとされている。

*The choices you make now will determine your future.*

# 癌

- 癌は体の細胞の一部が変異して起こりる。癌細胞は、ゆっくりと時間をかけて増殖し（早期がん）やがて小さな腫瘍や粘膜の変化となって現れる。
- 癌は時間がたつほど増殖のスピードが速くなり、その部分に自覚症状を感じるようになる。
- 癌細胞は正常な細胞から栄養分を奪って成長し、身体は衰弱し体重が激減する。
- 癌は転移（体のほかの場所に飛び火）し始め、一度転移が起こるとほかの場所にも次々と転移する。
- 癌が起こった最初の器官（原発巣）はもちろんのこと、転移した先の器官や組織も破壊されるようになり器官としての機能が衰えてしまう。
- 身体のおちこちのがん細胞がはびこり体中の機能が衰えると（末期がん）生命の維持が困難になる。

※症状や進行は、個人差があり器官によっても異なる。

## 困難

がんの発病にはさまざまな原因があり、家族性のがん以外では発症しやすい人を生活習慣や血液検査だけで診断することは困難。私たちは未来が予測できないために定期的な事後的検査を繰り返すか保険で苦悩を相殺するしか術はなかった。

## 増殖と発病

体の種々の臓器のがんは、がんになりやすい体質(遺伝子リスク)の人が、なりやすい生活習慣を継続することによりがん細胞が年余の時間をかけて増殖していき、発病にいたるとされている。

## 刺激

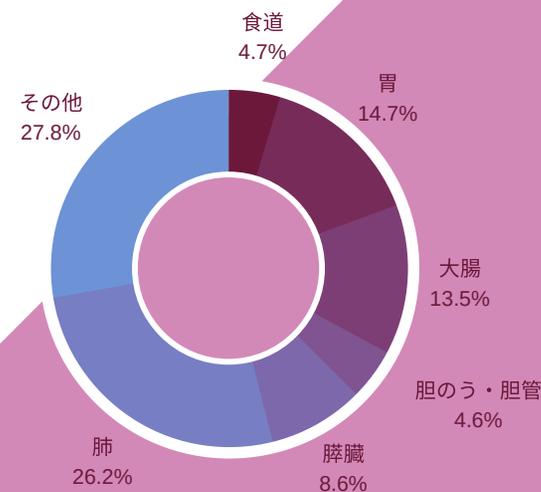
わたしたち人間の体は全て細胞で構成されており、細胞は普通に生活しているだけで、常に刺激や毒性のある物質（活性酸素等）などにさらされている。刺激などで傷ついた細胞は、自己回復し、元通りになる力がある。しかし、細胞の持つ回復力をはるかに超えるダメージを受けると、傷ついた部分が回復できず、細胞自身が正常な働きをしなくなったり別の働きをするようになってしまう（皮膚のシミなど）。さらにダメージが重なったり大きくなったりすることで、傷ついた細胞が、がん細胞に変わってしまうことがある。これががんの始まり。がんは早期発見が大切だが、何よりも、がん細胞を作らせないよう、日々の健康管理に気をつけることが大切なのだ。



# 370,000 もの人を 空へと 誘う癌

「癌を受け入れよう。不幸せの後は幸せが待っている。」なんて名言があるようにその脅威に対して受動的な選択を強制する癌。日本における2017年にがんで死亡した人は373,334人（男性220,398人、女性152,936人）。一体いつまで私たちはこの脅威に怯えなければならぬのか。いつどこで発現するかわからない上に、カラダのどの部分に発現するのかも不明である。意識の高い人でも抽象的な予防を余儀なくされ、癌の餌食となる。

男性では、40歳以上で消化器系のがん（胃、大腸、肝臓）の死亡が多くを占めるが、70歳代以上ではその割合はやや減少し、肺がんと前立腺がんの割合が増加する。女性では、40歳代では乳がん、子宮がん、卵巣がんの死亡が多くを占めるが、高齢になるほどその割合は減少し、消化器系（胃、大腸、肝臓）と肺がんの割合が増加する。



部位別の癌死亡割合（男性/全体220,398人）

If today were the last day of my life, would  
I want to do what I am about to do today?

アジアというフィールドで  
生きる私たちのために。  
ハイリスクな部位の癌を  
明らかにするために生まれた  
遺伝子解析。



新しく放つ

# 癌のリスク 遺伝子検査

遺伝子検査キット「癌のリスク遺伝子検査」では、世界中の癌と遺伝子に関連する研究情報の中から特にアジア人に多いとされる15種の癌の「癌を起こしやすくする関連遺伝子」を解析し、あなたにとってハイリスクのがんを明らかにするとともにそのリスクを下げる「生活習慣」を提案全く新しい遺伝子検査サービスです。

## 優先すべき癌を明らかに

脳から始まり、15種類の部位別癌関連遺伝子を検査・解析します。その中からあなたにとって最もリスクの高いとされる「部位」を評価します。今まで漠然と癌の恐怖に苛まれていたあなたを解放し、照準を提供します。予防すべき癌の部位が明らかになり、明日への行動が具体的になります。





人生はリスクとの戦いの連続。  
しかし、克服する方法があるリスクを  
恐れる必要はない。

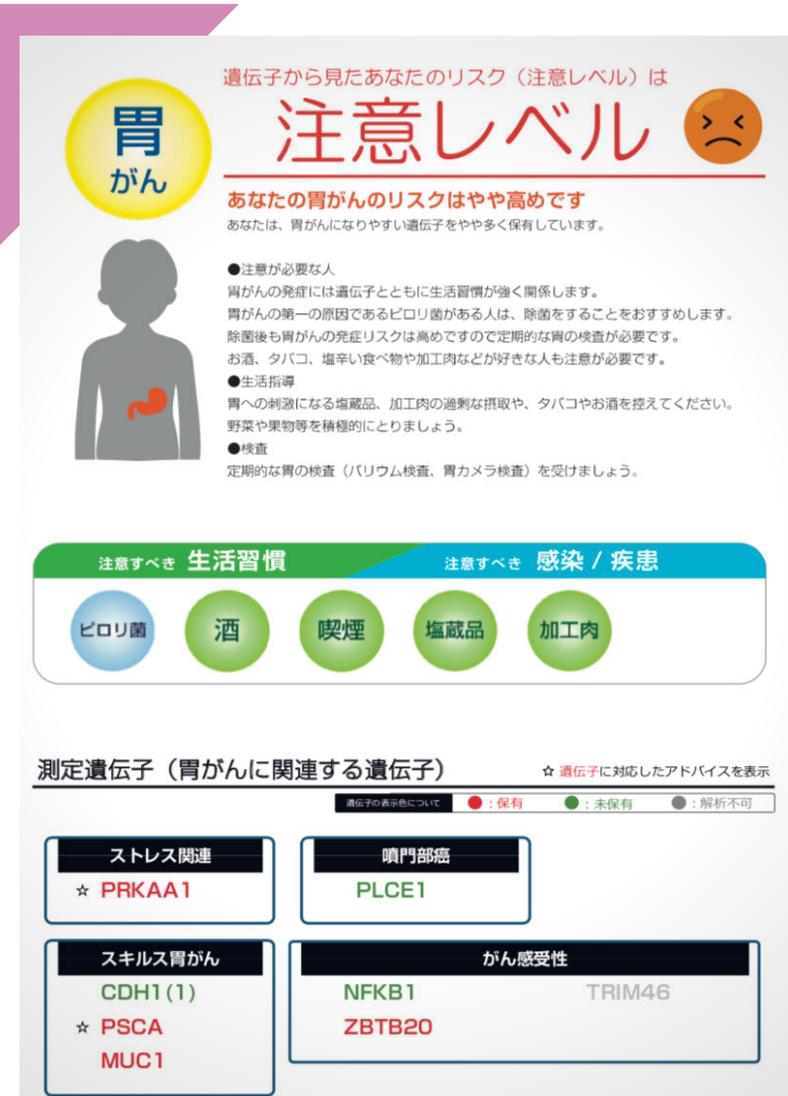
---

最優先で注意すべき癌の部位とその次に注意すべき癌の部位を遺伝子検査で明らかにするだけでなく、さらに注意すべき生活習慣パターンを開示する全く新しい遺伝子検査。癌における関連遺伝子と生活習慣の両方からより鋭い自己分析を最愛のあなたへ。

# RESULTS

## 癌のリスク遺伝子検査では がんの「注意レベル」を徹底診断

各疾患の遺伝的リスクを各遺伝子ごとに評価し、その積算和と標準値から3段階（平均、注意、要注意）で評価。疾患に関連する、注意が必要な人、生活指導、検査、各疾患ごとに注意すべき生活習慣・感染を記載。分かりやすく自分の遺伝子が持つ癌リスクを把握することができます。



### 【検査の目的】

体の種々の臓器のがんは、がんになりやすい体質（遺伝子リスク）の人が、なりやすい生活習慣を継続することにより、がん細胞が年余の時間をかけて増殖していき、発病にいたるとされています。がんの発病にはさまざまな原因があり、家族性のがん以外では発症しやすい人を生活習慣や血液検査だけで診断することは困難です。今回のがん遺伝子検査は、特にアジア人に多いとされる14種のがんの「がんを起こしやすくする関連遺伝子」を解析し、あなたにとってハイリスクのがんを明らかにするとともに、がんのリスクを下げる「生活習慣」を提案するものです。生活習慣の改善以外にも早期発見を目指す検査もお伝えします。



### 【あなたのがんのリスクとがん早期診断の検査と頻度一覧】

あなたの遺伝子リスク判定からみた最も高リスクな「がん」には、①を表示しています。（最大3までの表示）

	肺	乳腺	胃	大腸	肝臓	子宮頸部	食道	膵臓	腎臓	腸のう	脳	膀胱	白血球	卵巣
要注意	①	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	②	③	●
注意														
平均的														
頭部CT/MRI (年1回)													▲	
胸部CT (年1回)	●													
マンモグラフィ 超音波検査 (年1回) (※)		●												
胃カメラ (隔年1回) (※)			●											
胃バリウム検査 (年1回) (※)			●											
腹部超音波検査 (年1回)					●				●	●	●			
腹部CT/MRI (年1回)				●	●	●			●	●	●		●	●
便潜血 (年1回)				●										
尿細胞診 (年1回)										●			●	
血球計数検査 (一年1回)														●

●：あなたの遺伝子リスクからみた重要な検査 ●：必要な検査 ▲：できればすべき検査  
 ※：マンモグラフィは若い女性には向きません。超音波検査は比較的若い女性向けの検査です  
 \*：胃カメラをすれば胃バリウム検査は不要

早期発見は、数ではなく  
見極めで成されるという新しい概念。

かつては、検査の頻度によって発見率を高めていた癌ですが、これには時間やコスト、危機意識の継続が必要であり少しでも怠ると見逃すという悲劇に苛まれていました。癌のリスク遺伝子検査では各部位の癌リスクに優先順位をつけ効率的な早期発見を促すことができます。癌の個性を見極めるというこの概念は、あなたの未来を変える指標として光を照らします。

# 癌リスクに対して 医師からのあなたに沿った 生活指導アドバイス。

各疾患の遺伝的リスクを各遺伝子ごとに評価し、その積算和と標準値から3段階（平均、注意、要注意）で評価。疾患に関連する、注意が必要な人、生活指導、検査、各疾患ごとに注意すべき生活習慣・感染を記載。分かりやすく自分の遺伝子が持つ癌リスクを把握することができます。

## 高血糖に関するアドバイス

ADVICE of HYPERGLYCEMIA

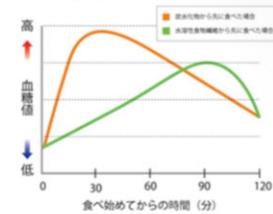
食事の順番と食事を抜かないことが大切

### ● 低GI値食品

現在太りすぎみです。同じ食事メニューでも、食べる順番によって血糖値の上がり方が異なります。血糖値が上がりにくいサラダなどの「低GI値食品」から先に食べるようにしましょう。



水溶性食物繊維から先に食べた場合の血糖値の下がり方



### ● 食事を抜かない

「欠食（食事を抜くこと）」は、総摂取カロリー量は少なくなりますが、身体が空腹状態となり、次の食事で血糖値が上がりやすくなってしまいます。食事は一日3食を規則正しく摂りましょう。

### ● 水溶性食物繊維

海藻などに含まれる「水溶性食物繊維」は、糖質の吸収・消化をゆるやかにして、急激な血糖値の上昇を抑える働きがあります。

## 内臓脂肪型肥満に注意

PPAR $\gamma$  PGC-1

脂肪細胞が肥大しやすい体質です。肥大した内臓脂肪細胞からは、インスリンの働きを弱くする悪玉ホルモンが作られます。「有酸素運動（一回10分以上）」は、内臓脂肪を直接エネルギーとして利用するため、悪玉ホルモンを減らす働きがあります。

## 血行不良になりやすい

EPHX2

毛細血管を拡張させる物質（EPHX2）が作りにくい体質です。血行が悪くなると、血糖値を下げるインスリンの働きが悪くなります。「ショウガエキス」には、血流を増やして血行を良くする働きがあります。「リンパマッサージ」も血流を良くするために効果的です。

## 悪玉ホルモン「レジスチン」

RETN

インスリンの働きを弱める悪玉ホルモン（レジスチン）が増えやすい体質です。ザクロなどに含まれる「エラグ酸」には、レジスチンを減らす働きがあります。また、悪玉ホルモンが増えないように「体重管理」を意識することも大切です。



## Difference

弊社の遺伝子検査は、1つのがんに対して、多数個の遺伝子を調べてリスク判定を行っており、判定の信頼性が高いのが特徴です。他社は 1遺伝子でがんのリスク判定はしているものもがございます。たとえば、1SNPで スキルス胃癌の判定を行うと、半数以上の日本人がスキルス胃癌（胃癌の10%を占める）のリスクが高いとの判定になります。検査情報も豊富に詳細に理解のしやすい構成になっています。

がんのリスクおよび予防のための対処法が見開き2頁で直観的に理解しやすいように表示されています。他社では、リスク判定のみであったり、遺伝子別の個別生活指導の記載がないものがあります。また、がんの早期診断に必要な検査項目が示されているのも弊社の特徴です。もしも、癌リスク遺伝子検査をご検討するのであれば、弊社の検査をおすすめする理由がここにあります。



自社

他社

信頼性

### 複数の遺伝子から判定

1つの癌に対して多数個の遺伝子を調べてリスク判定を行なっている。

### 1遺伝子から判定

1つの癌に対して1つの遺伝子だけを調べてリスク判定を行なっている。

検査情報

### 詳細な個別情報

遺伝子別の個別指導があり、見開き2項で直感的に理解しやすいように表示されている。

### 総括的な情報

遺伝子別の個別指導が掲載されていない。

早期診断

### 項目あり

癌の早期発見に必要な検査項目が表示されている。

### 項目なし

癌の早期発見に必要な検査項目が表示されていない項目がある。

## 刺激

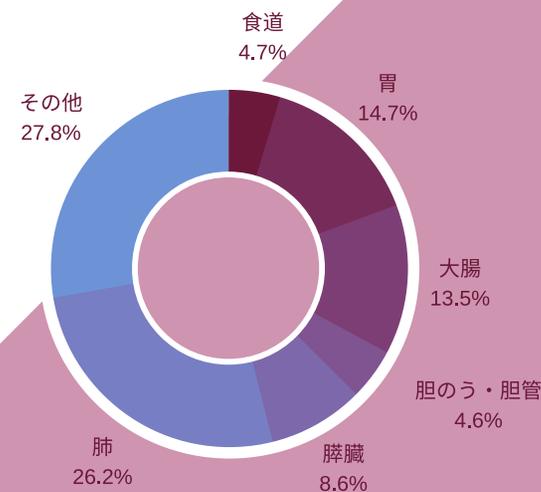
わたしたち人間の体は全て細胞で構成されており、細胞は普通に生活しているだけで、常に刺激や毒性のある物質（活性酸素等）などにさらされている。刺激などで傷ついた細胞は、自己回復し、元通りになる力がある。しかし、細胞の持つ回復力をはるかに超えるダメージを受けると、傷ついた部分が回復できず、細胞自身が正常な働きをしなくなったり別の働きをするようになってしまう（皮膚のシミなど）。さらにダメージが重なったり大きくなったりすることで、傷ついた細胞が、がん細胞に変わってしまうことがある。これががんの始まり。がんは早期発見が大切だが、何よりも、がん細胞を作らせないよう、日々の健康管理に気をつけることが大切なのだ。



# 370,000 もの人を 空へと 誘う癌

「癌を受け入れよう。不幸せの後は幸せが待っている。」なんて名言があるようにその脅威に対して受動的な選択を強制する癌。日本における2017年にがんで死亡した人は373,334人（男性220,398人、女性152,936人）。一体いつまで私たちはこの脅威に怯えなければならぬのか。いつどこで発現するかわからない上に、カラダのどの部分に発現するのかも不明である。意識の高い人でも抽象的な予防を余儀なくされ、癌の餌食となる。

男性では、40歳以上で消化器系のがん（胃、大腸、肝臓）の死亡が多くを占めるが、70歳代以上ではその割合はやや減少し、肺がんと前立腺がんの割合が増加する。女性では、40歳代では乳がん、子宮がん、卵巣がんの死亡が多くを占めるが、高齢になるほどその割合は減少し、消化器系（胃、大腸、肝臓）と肺がんの割合が増加する。



部位別の癌死亡割合（男性/全体220,398人）

If today were the last day of my life, would  
I want to do what I am about to do today?

アジアというフィールドで  
生きる私たちのために。  
ハイリスクな部位の癌を  
明らかにするために生まれた  
遺伝子解析。



新しく放つ

# 癌のリスク 遺伝子検査

遺伝子検査キット「癌のリスク遺伝子検査」では、世界中の癌と遺伝子に関連する研究情報の中から特にアジア人に多いとされる15種の癌の「癌を起こしやすくする関連遺伝子」を解析し、あなたにとってハイリスクのがんを明らかにするとともにそのリスクを下げる「生活習慣」を提案全く新しい遺伝子検査サービスです。

## 優先すべき癌を明らかに

脳から始まり、15種類の部位別癌関連遺伝子を検査・解析します。その中からあなたにとって最もリスクの高いとされる「部位」を評価します。今まで漠然と癌の恐怖に苛まれていたあなたを解放し、照準を提供します。予防すべき癌の部位が明らかになり、明日への行動が具体的になります。





人生はリスクとの戦いの連続。  
しかし、克服する方法があるリスクを  
恐れる必要はない。

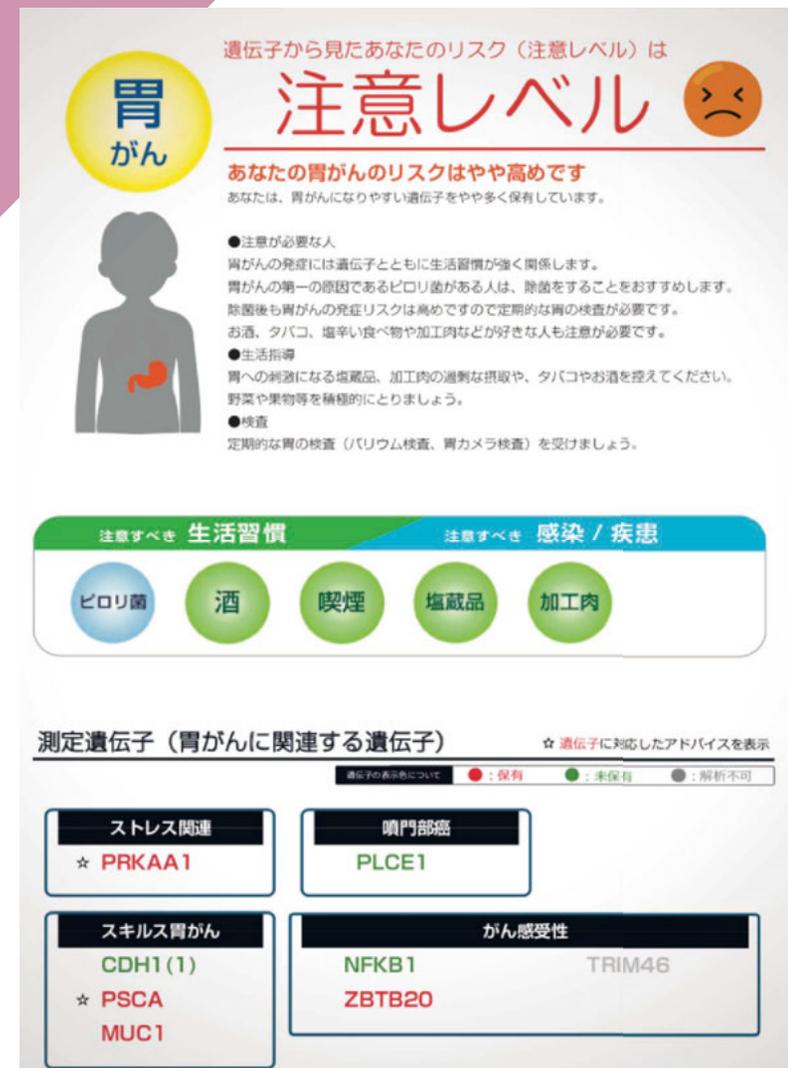
---

最優先で注意すべき癌の部位とその次に注意すべき癌の部位を遺伝子検査で明らかにするだけでなく、さらに注意すべき生活習慣パターンを開示する全く新しい遺伝子検査。癌における関連遺伝子と生活習慣の両方からより鋭い自己分析を最愛のあなたへ。

# RESULTS

癌のリスク遺伝子検査では  
がんの「注意レベル」を徹底診断

各疾患の遺伝的リスクを各遺伝子ごとに評価し、その積算和と標準値から3段階（平均、注意、要注意）で評価。疾患に関連する、注意が必要な人、生活指導、検査、各疾患ごとに注意すべき生活習慣・感染を記載。分かりやすく自分の遺伝子が持つ癌リスクを把握することができます。



### 【検査の目的】

体の種々の臓器のがんは、がんになりやすい体質（遺伝子リスク）の人が、なりやすい生活習慣を継続することにより、がん細胞が年余の時間をかけて増殖していき、発病にいたるとされています。がんの発病にはさまざまな原因があり、家族性のがん以外では発症しやすい人を生活習慣や血液検査だけで診断することは困難です。今回のがん遺伝子検査は、特にアジア人に多いとされる14種のがんの「がんを起こしやすくする関連遺伝子」を解析し、あなたにとってハイリスクのがんを明らかにするとともに、がんのリスクを下げる「生活習慣」を提案するものです。生活習慣の改善以外にも早期発見を目指す検査もお伝えします。



### 【あなたのがんのリスクとがん早期診断の検査と頻度一覧】

あなたの遺伝子リスク判定からみた最も気をつけて欲しい「がん」には、①を表示しています。（最大3までの表示）

	肺	乳 腺	胃	大 腸	肝 臓	子 宮 頸 部	食 道	膵 臓	腎 臓	胆 の う	脳	膀 胱	白 血 球	卵 巣
要注意	①	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	②	③	●
注 意														
平均的														
頭部CT/MRI (年1回)														▲
胸部CT (年1回)	●													
マンモグラフィ/超音波検査 (年1回)※		●												
胃カメラ (隔年1回)†(●)			●											
胃バリウム検査 (年1回)†(●)			●											
腹部超音波検査 (年1回)					●			●	●	●				
腹部CT/MRI (年1回)			●	●	●	●		●	●	●			●	●
便潜血 (年1回)				●										
尿細胞診 (年1回)									●				●	
血球計数検査 (～年1回)														●

●：あなたのがん遺伝子リスクからみた重要な検査 ●：必要な検査 ▲：できればべき検査  
 †：マンモグラフィは若い女性には向きません。超音波検査は比較的若い女性向けの検査です  
 \*：胃カメラをすれば胃バリウム検査は不要

早期発見は、数ではなく  
見極めで成されるという新しい概念。

かつては、検査の頻度によって発見率を高めていた癌ですが、これには時間やコスト、危機意識の継続が必要であり少しでも怠ると見逃すという悲劇に苛まれていました。癌のリスク遺伝子検査では各部位の癌リスクに優先順位をつけ効率的な早期発見を促すことができます。癌の個性を見極めるというこの概念は、あなたの未来を変える指標として光を照らします。

# 癌リスクに対して 医師からのあなたに沿った 生活指導アドバイス。

各疾患の遺伝的リスクを各遺伝子ごとに評価し、その積算和と標準値から3段階（平均、注意、要注意）で評価。疾患に関連する、注意が必要な人、生活指導、検査、各疾患ごとに注意すべき生活習慣・感染を記載。分かりやすく自分の遺伝子が持つ癌リスクを把握することができます。

## 高血糖に関するアドバイス

ADVICE of HYPERGLYCEMIA

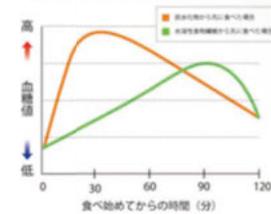
### 食事の順番と食事を抜かないことが大切

#### ● 低GI値食品

現在太りすぎみです。同じ食事メニューでも、食べる順番によって血糖値の上がり方が異なります。血糖値が上がりにくいサラダなどの「低GI値食品」から先に食べるようにしましょう。



水溶性食物繊維から先に食べた場合の血糖値の下がり方



#### ● 食事を抜かない

「欠食（食事を抜くこと）」は、総摂取カロリー量は少なくなります。身体が空腹状態となり、次の食事で血糖値が上がりやすくなってしまいます。食事は一日3食を規則正しく摂りましょう。

#### ● 水溶性食物繊維

海藻などに含まれる「水溶性食物繊維」は、糖質の吸収・消化をゆるやかにして、急激な血糖値の上昇を抑える働きがあります。

### 内臓脂肪型肥満に注意

PPAR $\gamma$  PGC-1

脂肪細胞が肥大しやすい体質です。肥大した内臓脂肪細胞からは、インスリンの働きを弱くする悪玉ホルモンが作られます。「有酸素運動（一回10分以上）」は、内臓脂肪を直接エネルギーとして利用するため、悪玉ホルモンを減らす働きがあります。

### 血行不良になりやすい

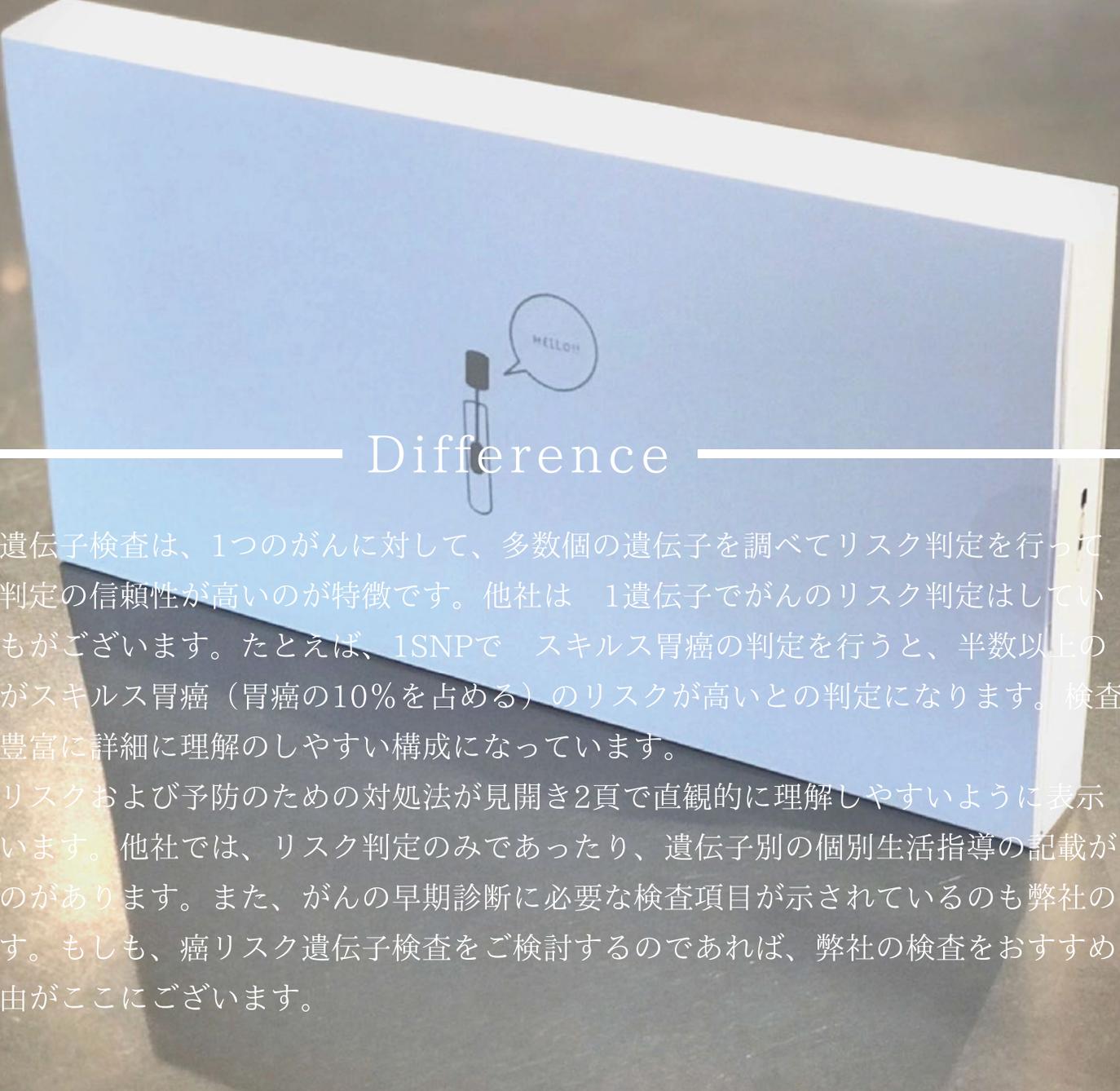
EPHX2

毛細血管を拡張させる物質（EPHX2）が作られにくい体質です。血行が悪くなると、血糖値を下げるインスリンの働きが悪くなります。「ショウガエキス」には、血流を増やして血行を良くする働きがあります。「リンパマッサージ」も血流を良くするために効果的です。

### 悪玉ホルモン「レジスチン」

RETN

インスリンの働きを弱める悪玉ホルモン（レジスチン）が増えやすい体質です。ザクロなどに含まれる「エラグ酸」には、レジスチンを減らす働きがあります。また、悪玉ホルモンが増えないように「体重管理」を意識することも大切です。



## Difference

弊社の遺伝子検査は、1つのがんに対して、多数個の遺伝子を調べてリスク判定を行っており、判定の信頼性が高いのが特徴です。他社は 1遺伝子でがんのリスク判定はしているものもがございます。たとえば、1SNPで スキルス胃癌の判定を行うと、半数以上の日本人がスキルス胃癌（胃癌の10%を占める）のリスクが高いとの判定になります。検査情報も豊富に詳細に理解のしやすい構成になっています。

がんのリスクおよび予防のための対処法が見開き2頁で直観的に理解しやすいように表示されています。他社では、リスク判定のみであったり、遺伝子別の個別生活指導の記載がないものがあります。また、がんの早期診断に必要な検査項目が示されているのも弊社の特徴です。もしも、癌リスク遺伝子検査をご検討するのであれば、弊社の検査をおすすめする理由がここにあります。



自社

他社

信頼性

### 複数の遺伝子から判定

1つの癌に対して多数個の遺伝子を調べてリスク判定を行なっている。

### 1遺伝子から判定

1つの癌に対して1つの遺伝子だけを調べてリスク判定を行なっている。

検査情報

### 詳細な個別情報

遺伝子別の個別指導があり、見開き2項で直感的に理解しやすいように表示されている。

### 総括的な情報

遺伝子別の個別指導が掲載されていない。

早期診断

### 項目あり

癌の早期発見に必要な検査項目が表示されている。

### 項目なし

癌の早期発見に必要な検査項目が表示されていない項目がある。

## 刺激

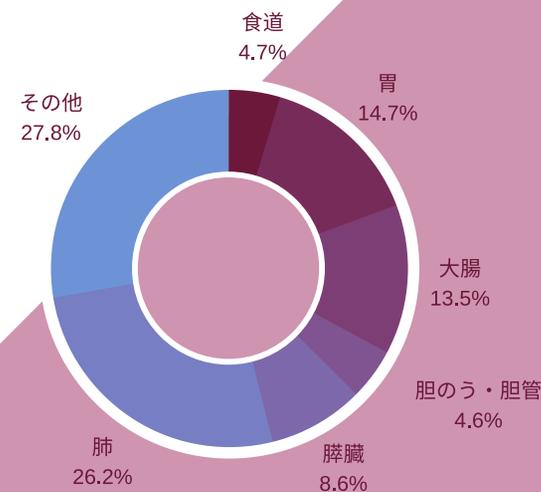
わたしたち人間の体は全て細胞で構成されており、細胞は普通に生活しているだけで、常に刺激や毒性のある物質（活性酸素等）などにさらされている。刺激などで傷ついた細胞は、自己回復し、元通りになる力がある。しかし、細胞の持つ回復力をはるかに超えるダメージを受けると、傷ついた部分が回復できず、細胞自身が正常な働きをしなくなったり別の働きをするようになってしまう（皮膚のシミなど）。さらにダメージが重なったり大きくなったりすることで、傷ついた細胞が、がん細胞に変わってしまうことがある。これががんの始まり。がんは早期発見が大切だが、何よりも、がん細胞を作らせないよう、日々の健康管理に気をつけることが大切なのだ。



# 370,000 もの人を 空へと 誘う癌

「癌を受け入れよう。不幸せの後は幸せが待っている。」なんて名言があるようにその脅威に対して受動的な選択を強制する癌。日本における2017年にがんで死亡した人は373,334人（男性220,398人、女性152,936人）。一体いつまで私たちはこの脅威に怯えなければならぬのか。いつどこで発現するかわからない上に、カラダのどの部分に発現するのかも不明である。意識の高い人でも抽象的な予防を余儀なくされ、癌の餌食となる。

男性では、40歳以上で消化器系のがん（胃、大腸、肝臓）の死亡が多くを占めるが、70歳代以上ではその割合はやや減少し、肺がんと前立腺がんの割合が増加する。女性では、40歳代では乳がん、子宮がん、卵巣がんの死亡が多くを占めるが、高齢になるほどその割合は減少し、消化器系（胃、大腸、肝臓）と肺がんの割合が増加する。



部位別の癌死亡割合（男性/全体220,398人）

国立がん研究センター癌対策情報センター（がん登録・統計）

If today were the last day of my life, would  
I want to do what I am about to do today?

アジアというフィールドで  
生きる私たちのために。  
ハイリスクな部位の癌を  
明らかにするために生まれた  
遺伝子解析。



新しく放つ

# 癌のリスク 遺伝子検査

遺伝子検査キット「癌のリスク遺伝子検査」では、世界中の癌と遺伝子に関連する研究情報の中から特にアジア人に多いとされる15種の癌の「癌を起こしやすくする関連遺伝子」を解析し、あなたにとってハイリスクのがんを明らかにするとともにそのリスクを下げる「生活習慣」を提案全く新しい遺伝子検査サービスです。

## 優先すべき癌を明らかに

脳から始まり、15種類の部位別癌関連遺伝子を検査・解析します。その中からあなたにとって最もリスクの高いとされる「部位」を評価します。今まで漠然と癌の恐怖に苛まれていたあなたを解放し、照準を提供します。予防すべき癌の部位が明らかになり、明日への行動が具体的になります。





人生はリスクとの戦いの連続。  
しかし、克服する方法があるリスクを  
恐れる必要はない。

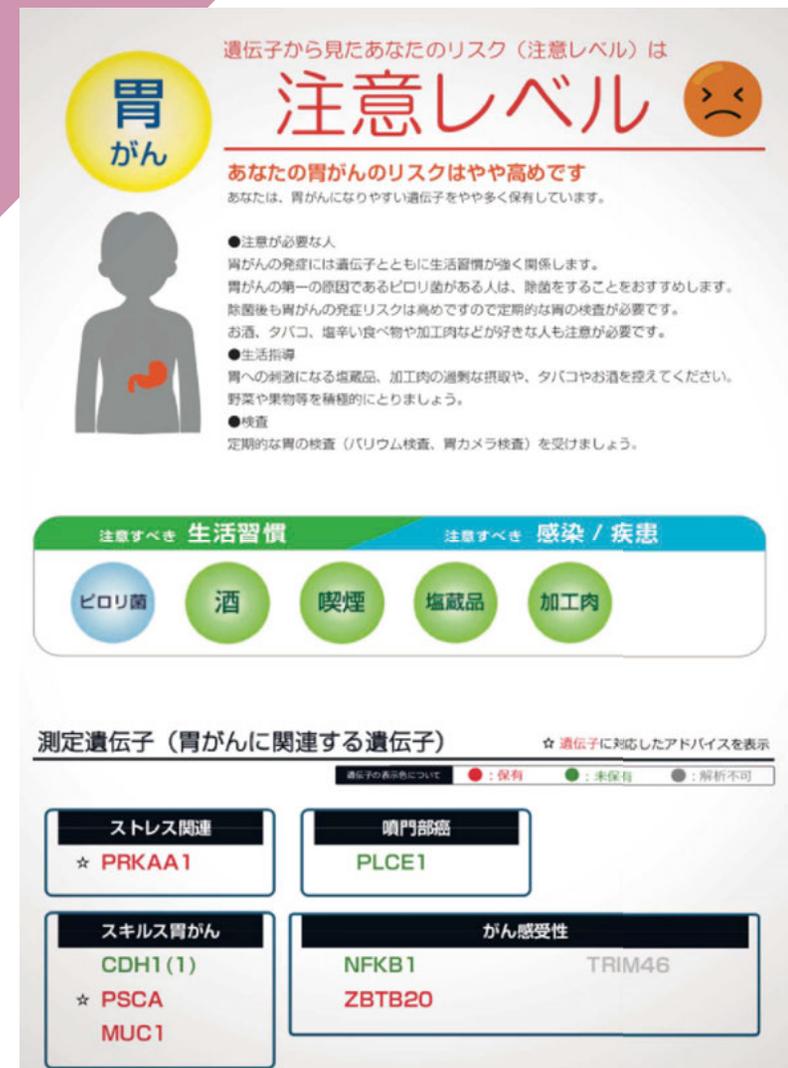
---

最優先で注意すべき癌の部位とその次に注意すべき癌の部位を遺伝子検査で明らかにするだけでなく、さらに注意すべき生活習慣パターンを開示する全く新しい遺伝子検査。癌における関連遺伝子と生活習慣の両方からより鋭い自己分析を最愛のあなたへ。

# RESULTS

癌のリスク遺伝子検査では  
がんの「注意レベル」を徹底診断

各疾患の遺伝的リスクを各遺伝子ごとに評価し、その積算和と標準値から3段階（平均、注意、要注意）で評価。疾患に関連する、注意が必要な人、生活指導、検査、各疾患ごとに注意すべき生活習慣・感染を記載。分かりやすく自分の遺伝子が持つ癌リスクを把握することができます。



### 【検査の目的】

体の種々の臓器のがんは、がんになりやすい体質（遺伝子リスク）の人が、なりやすい生活習慣を継続することにより、がん細胞が年余の時間をかけて増殖していき、発病にいたるとされています。がんの発病にはさまざまな原因があり、家族性のがん以外では発症しやすい人を生活習慣や血液検査だけで診断することは困難です。今回のがん遺伝子検査は、特にアジア人に多いとされる14種のがんの「がんを起こしやすくする関連遺伝子」を解析し、あなたにとってハイリスクのがんを明らかにするとともに、がんのリスクを下げる「生活習慣」を提案するものです。生活習慣の改善以外にも早期発見を目指す検査もお伝えします。



### 【あなたのがんのリスクとがん早期診断の検査と頻度一覧】

あなたの遺伝子リスク判定からみた最も気をつけて欲しい「がん」には、①を表示しています。（最大3までの表示）

	肺	乳 腺	胃	大 腸	肝 臓	子 宮 頸 部	食 道	膵 臓	腎 臓	胆 の う	脳	膀 胱	白 血 球	卵 巣
要 注 意	①	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	②	③	●
注 意														
平 均 的														
頭部CT/MRI (年1回)														▲
胸部CT (年1回)	●													
マンモグラフィ 超音波検査 (年1回)※		●												
胃カメラ (隔年1回)†(●)			●											
胃バリウム検査 (年1回)†(●)			●											
腹部超音波検査 (年1回)					●			●	●	●				
腹部CT/MRI (年1回)			●	●	●	●		●	●	●			●	●
便潜血 (年1回)				●										
尿細胞診 (年1回)									●				●	
血球計数検査 (～年1回)														●

●：あなたのがん遺伝子リスクからみた重要な検査 ●：必要な検査 ▲：できればすべき検査  
 †：マンモグラフィは若い女性には向きません。超音波検査は比較的若い女性向けの検査です  
 \*：胃カメラをすれば胃バリウム検査は不要

早期発見は、数ではなく  
見極めで成されるという新しい概念。

かつては、検査の頻度によって発見率を高めていた癌ですが、これには時間やコスト、危機意識の継続が必要であり少しでも怠ると見逃すという悲劇に苛まれていました。癌のリスク遺伝子検査では各部位の癌リスクに優先順位をつけ効率的な早期発見を促すことができます。癌の個性を見極めるというこの概念は、あなたの未来を変える指標として光を照らします。

# 癌リスクに対して 医師からのあなたに沿った 生活指導アドバイス。

各疾患の遺伝的リスクを各遺伝子ごとに評価し、その積算和と標準値から3段階（平均、注意、要注意）で評価。疾患に関連する、注意が必要な人、生活指導、検査、各疾患ごとに注意すべき生活習慣・感染を記載。分かりやすく自分の遺伝子が持つ癌リスクを把握することができます。

## 高血糖に関するアドバイス

ADVICE of HYPERGLYCEMIA

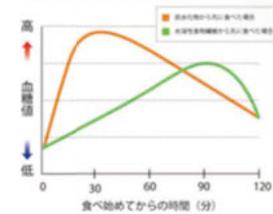
### 食事の順番と食事を抜かないことが大切

#### ● 低GI値食品

現在太りすぎみです。同じ食事メニューでも、食べる順番によって血糖値の上がり方が異なります。血糖値が上がりにくいサラダなどの「低GI値食品」から先に食べるようにしましょう。



水溶性食物繊維から先に食べた場合の血糖値の下がり方



#### ● 食事を抜かない

「欠食（食事を抜くこと）」は、総摂取カロリー量は少なくなります。身体が空腹状態となり、次の食事で血糖値が上がりやすくなってしまいます。食事は一日3食を規則正しく摂りましょう。

#### ● 水溶性食物繊維

海藻などに含まれる「水溶性食物繊維」は、糖質の吸収・消化をゆるやかにして、急激な血糖値の上昇を抑える働きがあります。

### 内臓脂肪型肥満に注意

PPAR $\gamma$  PGC-1

脂肪細胞が肥大しやすい体質です。肥大した内臓脂肪細胞からは、インスリンの働きを弱くする悪玉ホルモンが作られます。「有酸素運動（一回10分以上）」は、内臓脂肪を直接エネルギーとして利用するため、悪玉ホルモンを減らす働きがあります。

### 血行不良になりやすい

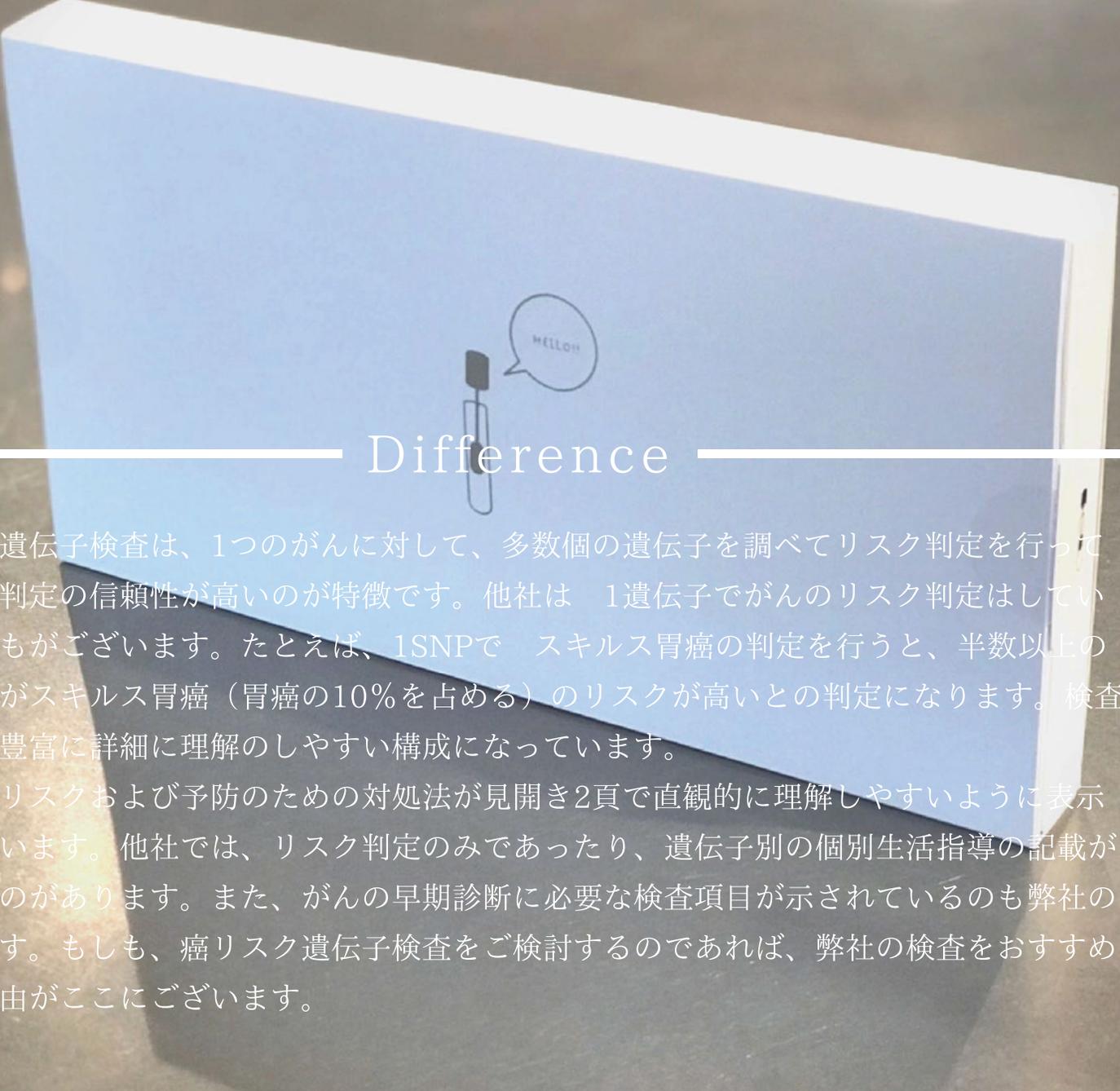
EPHX2

毛細血管を拡張させる物質（EPHX2）が作られにくい体質です。血行が悪くなると、血糖値を下げるインスリンの働きが悪くなります。「ショウガエキス」には、血流を増やして血行を良くする働きがあります。「リンパマッサージ」も血流を良くするために効果的です。

### 悪玉ホルモン「レジスチン」

RETN

インスリンの働きを弱める悪玉ホルモン（レジスチン）が増えやすい体質です。ザクロなどに含まれる「エラグ酸」には、レジスチンを減らす働きがあります。また、悪玉ホルモンが増えないように「体重管理」を意識することも大切です。



## Difference

弊社の遺伝子検査は、1つのがんに対して、多数個の遺伝子を調べてリスク判定を行っており、判定の信頼性が高いのが特徴です。他社は 1遺伝子でがんのリスク判定はしているものもがございます。たとえば、1SNPで スキルス胃癌の判定を行うと、半数以上の日本人がスキルス胃癌（胃癌の10%を占める）のリスクが高いとの判定になります。検査情報も豊富に詳細に理解のしやすい構成になっています。

がんのリスクおよび予防のための対処法が見開き2頁で直観的に理解しやすいように表示されています。他社では、リスク判定のみであったり、遺伝子別の個別生活指導の記載がないものがあります。また、がんの早期診断に必要な検査項目が示されているのも弊社の特徴です。もしも、癌リスク遺伝子検査をご検討するのであれば、弊社の検査をおすすめする理由がここにあります。



自社

他社

信頼性

### 複数の遺伝子から判定

1つの癌に対して多数個の遺伝子を調べてリスク判定を行なっている。

### 1遺伝子から判定

1つの癌に対して1つの遺伝子だけを調べてリスク判定を行なっている。

検査情報

### 詳細な個別情報

遺伝子別の個別指導があり、見開き2項で直感的に理解しやすいように表示されている。

### 総括的な情報

遺伝子別の個別指導が掲載されていない。

早期診断

### 項目あり

癌の早期発見に必要な検査項目が表示されている。

### 項目なし

癌の早期発見に必要な検査項目が表示されていない項目がある。